

第10回  
多可町生涯学習まちづくり委員会

会議録

《概要版》

事務局 多可町生涯学習課

## 第10回多可町生涯学習まちづくり委員会 会議録

- 日時 令和5年9月8日(金) 午後7時30分～午後10時00分
- 場所 アスパル 研修室
- 出席者
- ・委員 9名/12名(敬称略)  
近藤 文好 杉本 真 山本 和樹 山本 早希  
遠藤 ひとみ 藤賀 幸子 立岩 一真 後藤 さおり  
石塚 郁
  - ・欠席委員 蔦木 伸一郎 小林 一光 小寺 祥之
  - ・事務局 生涯学習課 課長 藤原 徹  
副課長 梅田 一志  
副課長 中里 尚子  
課長補佐 橋本 行広  
理事兼教育総務課長 金高 竜幸

- 議 事
- (1)愛称募集について
  - (2)第2回ワークショップについて
  - (3)今後のスケジュールについて

- 会議結果
- (1)愛称募集について
    - ・現在の応募数は136件(うち高校生以下49件)
    - ・選考方法はすべての応募愛称から委員が選ぶことに決定
  - (2)第2回ワークショップについて
    - ・内容は、①愛称のお披露目、②まちづくりプラザに対する若者の意見を聞こう
    - ③建築現場視察に決定。
    - ※学校等への依頼は座長が行う。
    - ・日時は、11月12日(日)10:00から。
  - (3)今後のスケジュールについて
    - ・10月中旬に第11回委員会開催  
(愛称選考、ワークショップについて、図書館の運営について)
    - ・11月、12月に委員会開催(まちプラの運営について)
    - ・12月 骨子作成
    - ・1月 提案書提出

■会議の経過

<p>次第 1</p> <p>(座長)</p>	<p>開会</p> <p>定刻となりましたので、はじめさせていただきます。早くも第10回目となりました。今日は2点、愛称募集と第2回のワークショップについて深掘りをさせていただけたらと思いますので、ご協力のほうよろしくをお願いします。</p>
<p>次第 2</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(座長)</p>	<p>愛称募集について</p> <p>それではまず次第に沿って2番目の愛称募集について現在の募集状況とか諸々について事務局からお願いします。</p> <p>愛称募集8月1日から募集を開始したものなんですけど、今現在で136件応募がありました。その中で高校生以下の方が49件ありました。大部分が小学生の応募です。F委員の方から先ほどいただいたんですが、小学生からまとめて応募をいただいたので、まだ八千代小学校の分が入るので小学生の分はまだ増えるかなと思っています。そんな状況なんですけど、9月に折り込みをさせていただいて、ここへ来てだいぶ増えてきてるかなと感じています。</p> <p>愛称募集なんですけど、今度この中からどれを愛称にするのか選ぶ作業になってくるかなというふうに思うんですけど、パターンを2つ考えています。</p> <p>1つ目のパターンが生涯学習課のほうで1次審査させていただいて、ある程度絞ったあとに今度10月の委員会の中で二次審査をして一個に絞るというやり方をするのか、2つ目として9月の末で締め切りますけど、締め切ったすぐに全部の応募された名前を皆さんのほうにお送りして、その中である程度あたりをつけていただいております、そのあと10月の委員会で絞るっていうやり方がどちらかにさせていただこうかなと思っているんですけども、今日そちらについてご意見いただけたらと思っています。</p> <p>事務局からお話がありましたように、今日付で136件で、特に小学生の子どもたちもご尽力いただいて多く集まりました。ただ前回の委員会でも大きな風呂敷を広げまして目標件数は500件やと言ってます。その500件の意味は、近隣市のある施設で500件応募があったと。ただあれは市内だけじゃなしに市外も全国から含めてで、内容を聞くと市内での実際の申込みというのは100後半から200程度であったとも聞いています。それと前回言いましたように各委員の皆さんには申し訳ないんですが、愛称募集のチラシをお配りさせていただいております。身近な方であるとか、特に前回の委員会でも話ができましたが、これらを担う若者たちに愛称を決めていただく。前回私ちょっとこのプラザの案内できることが皆さん住民の方に認知が広がってきましたよっていう話をしたんですけど、チラシを配っていると「これ何」とか「生涯学習って何」とかいろんなところがあって、そこを説明することによって新しいプラザの理解とか認知が広がっていくんじゃないかなと思いますので、まずは皆さんが愛称募集を出していただいて、その上で手配り電話配りしていただいて、ぜひこの締め切り9月の末においては目標の500件とは言わず250件くらいは集めていきたいと思いますので、まずはご協力の程お願いします。</p>

で、いま小学生の子の応募を見ました。すごいですね。絵文字からしっかりした公共施設の名前からこれはなんやっていう言葉から昔のあまんじゃこを变形させたようなやつとか、やっぱり違いますよね。発想力が。これからの多可町はまだまだ大丈夫だなと。問題はたぶん200件くらいは集まります。200件くらい集まった中で10月の委員会でこれは決定ではないんですが一つに最終案を絞るといふ形になります。何で決定じゃないのかと言うと、この委員会でこの案の一つ絞りました。で、最終的には議会の承認が必要ですか。

(生涯学習課長)

そこも絶対にその名前を議会に上程してせなあかんとかそういうものではないので、そこはちょっとまだどっちでもいい言うたらおかしいけど、条例自身はつくらなあかんけど、その施設の名前の愛称を登録するというのが絶対条件ではないです。

(座長)

ということはある程度決定に近いことで話が進められると。

(生涯学習課長)

これがもう決定いただいたら決定と。愛称としてはもう決定。施設の名称としてそれを入れるか入れへんかいうのはちょっとまだ絶対の問題ではないということでご理解いただけたら。愛称ということで決定するのが委員会さんがちょっと肩軽くていいなということならそれはそれでOKですというようなことです。

(座長)

というところです。例えば270件集まって、先ほど2パターン言われました。1パターンはある程度生涯学習課の中で吟味いただいて、たとえば5パターンとか10パターンとか決めてそれで皆さんでお話をしましょうというのが1つ。それかすべて270件羅列した中で皆さんで、それも当日渡していきなり考えろっていうのは無理ですので、会議の10日とか2週間前には皆さんにご呈示させていただいて、締め切りから会議までの間ありますのでその中で検討していただいて、投票でもなんでも決定はするとは思いますが、そこだけを愛称募集に関しては押さえておきたいと思います。

パターン1が生涯学習課で一次審査。パターン2が次回の委員会で皆で決めますというところで行きましょう。

パターン1でいいよという方は挙手を願います。

(座長)

1名。パターン2で行った方がいいんじゃないかなという方は挙手願います。

(座長)

皆さん挙がってますね。パターン2で。A委員さん申し訳ない。

ということは事務局のほうには申し訳ないですが、名前とか伏せた中で募集と愛称をつけた意味合いと、それと中学生とか小学生とかちょっとそういったこととだけを一覧表でずらっとなるべく早くまとめていただいて渡していただく。中にはロゴとかちょっと絵なんかも描いてるのあるので、それは別の何かコピーでとっていただいて残しておいてもらったら使えると思います。

以上が愛称募集のお話ですが、愛称募集について何かご意見等ありましたら挙手を願います。

特にはないようですので次にこれが多分ちょっと今日の問題になると思います。第2回のワークショップです。

<p>次第3</p> <p>(座長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(座長)</p> <p>(A委員)</p>	<p>第2回ワークショップについて</p> <p>前回ちらっとお話もさせていただきながらチラシも配らせていただいています。日程も前回の委員会で決めさせていただきました。そのところの内容をもうちょっと詳細的に事務局から説明をお願いします。</p> <p>ワークショップなんですが、今お手元に配らせていただいていますチラシに載ってる分ですけども、まず内容としましては1つ目が愛称。先ほども話題に出た愛称の発表、お披露目みたいな形をしたいと思います。名付け親の方を招待して賞品の贈呈式とかそういうのをしたいと考えています。2つ目が住民自主企画の発表会ということになってます。町民の方とかでこんなことが出来るよ、あんなことが出来るよというようなことを発表していただいて、それを施設が完成したらやっていただくみたいなことの発表会をしたいと考えています。3つ目が現場視察です。今もう更地になってますけども、そちらに行っていていただいて現場の広さを体感していただいたり、あとは設計業者から施設の説明をしていただいたりみたいなことを考えております。</p> <p>あと今日ちょっと見ていただきたいのが、配らせていただいているカラーの両面のチラシなんですけども、こちらについてまたご意見をいただきたいなというふうに思っております。スケジュールとしては、もう時間があんまりない状況になっているので、9月もう今日8日ですけどこの会議が終わって9月15日から募集という形にして、10月1日発行の広報10月号に折り込みたいなというふうに思ってます。募集期間を10月末までにさせていただいて、その中から応募していただいた方の審査ではないんですが、一度委員会で諮らせてもらって、皆さんでちょっと話をしてもらいながら当日の発表を迎えたいというようなことを考えております。この自主企画については、また後ほど座長から補足があると思います。</p> <p>この11月12日の第2回のワークショップになります。第1回目のワークショップも非常に心配しておりましたが、多くの方が来ていただいて、盛り上がった形でした。これがまちづくりプラザやなというようなワークショップができたと考えてます。今度は第2回のワークショップです。内容的には先ほど事務局から説明があったように、愛称の発表、名付け親の方招待させていただいてお話を聞きながら賞品の贈呈式というのをしたいと思います。第2限として住民の自主企画の発表会です。前回の会議で私も一方的に説明みたいな形でしゃべらせていただいたんですけども、このチラシの後ろに応募条件とか補助内容とかちょっと追加はしているんですが、基本このチラシを見ていただいたらだいたいがわかるんじゃないかと思うんですが、この住民の自主企画も含めてこの表裏のチラシ案の文言とかいうところで、ご意見等があれば聞かさせていただいて訂正をさせていただいたらと思います。</p> <p>A委員さんお願いします。</p> <p>よく出来ていると思うんですけど、この自主企画私も応募したいなどは思います。やるこの企画ですけど、常時そこで行われているようなものとか、特に期</p>
--	--

間であったりとか、何か制限があるっていうふうなものって何か想定されてますでしょうか。

(座長) 住民企画を考えられました。申込みをされました。それを開催する期間？

(A委員) ではなくて、基本的にプラザでは一人でもやりたいことをそこへフラッと来てやると、それで構わないですね。それは基本的なコンセプトにあると思うんですけど。その中で自主企画っていうものが、ここで募集されてるものっていうのが何ていうんですかね、やることが個人でもいいのか、それとも団体でなといけないのか。

(座長) 応募資格のところ個人でも団体(グループ)でも可としています。その狙いは、もちろん各種団体グループありますよね。芸術的な団体されてるところもあったり、音楽的な団体をされてるところもあったり、いろんなどこがあるんですけど、そこで考えられてることもあるんですけど、個人でされてる個人的にやりたいことが出来る場所であってもほしいですね。私がパッと浮かぶのは例えば横屋に竹とんぼを作らせたなら日本一やという数原さんという方がおられるんですけど、その方は個人で何かの団体をされてるわけではないんですけど、個人的に活動をされている。竹とんぼの会かなんかで個人でやられている。そんな方が例えば子どもたちを集めて竹とんぼなんかを製作して、外の芝生広場で飛ばして競争して、そんな遊び的なことができへんかな、それでもいいと思うんですよ僕は。

(A委員) それを企画で単発っていうより、同じものであってもシリーズでやってもらうとか。特に制約はないという感じですか。

(座長) 今回の住民自主企画の募集に関しては、極力僕は制約をこれしたらあきません、あれしたらあきません、もちろんルールの規則的っていうのはありますけど、それ以外のところはなるべく外したい。というのも、一つはまちづくりプラザっていうもののPRを兼ねる。生涯学習まちづくりプラザっていう言葉が持つ意味合いとして、何か一部限定的な年代であったり住民であったり団体であったり、そこしか参画できませんよっていうもんじゃ僕はないと思っているんで。一人でも皆でもグループでもいろんな方が用事がなくても来れるプラザ。でも来たら何かやってるよねっていう。その中から新しい何かが生まれる。そのPRも兼ねているんで、今回のやる住民自主企画というのは継続するかどうかは別としてオープニングを兼ねた企画だと思っているんで、制約は言われているように極力省きたいなど

(A委員) だからこの企画の提案っていうのは個人でして、じゃあ賛同される方集まってからスタートでも構わないわけですね。

(座長) 構わないですよ。だからその賛同する人集まってねっていうお手伝いをするのが、次の準備委員会になるのか正式に立ち上がったあとのグループになるのかは別ですけど、それはいいと思います。

(A委員)	わかりました。
(座長)	ではその並びでF委員の方から順番に。
(F委員)	<p>このチラシを前も見せていただいたときに、もし私がこの委員会も参加していない普通の町民だったら、何を持って出たらいいのかなってということがもうひとつちょっと分からないなという。その住民自主企画っていうのがベルディーでもありますけれども、あれぐらいのことせなあかんのやろかとか、隣保でなんやかんやしてるこんなやつたらあかんのやろかとか、そこら辺のことが初めてなのでちょっと分かりかねるなと思うんですね。発表会となると、また敷居が高いなという感じになって。まあ私は図書館の方から出てきてますので、もし私が出すのなら大人のための読み聞かせとか、ビブリオバトルとか、そういうような形でしたいんだけど発表会となると…。この言葉がちょっと敷居が高いかなとちょっと思っ。そういうのを見たこともないし。それでこの間も各学校の図書室に行っているんですけど、小学生でもドラムしている子もいてたし、それぞれいっぱい原石はあるんですね。でもその原石をどう拾って磨いていくか、どうやってこの参加につないでいくかっていうそのジョイントの部分がちょっとわかりかねてるっていうのが今の私の気持ちっていうかあれなんですね。できたら私も自主企画を隣保の仲良しさんと出したいなとは思っていますが、何回も言いますが発表会となるとダンスせなあかんのかなとか、舞台上に立つんやろかとか、いわゆる公会堂でやっていたようなことしたらいいんちがうん、婦人会でしとったようなんしたらいいんちがうんみたいなことを話してるんですけどね。昔はほんと婦人会全盛期の頃は旅行の度に何か出し物を考えてやってたようなことをしてもいいんちやうということは隣保では話してるんですけど。</p>
(座長)	<p>私もそこ悩んで、いいところをつかれたなと思って。これもともと住民自主企画の話の前回の委員会でしたときに、委員会の中でじゃあいろんな企画が出たときに審査をするのっていう話があって、まず審査会とかいう話があったんです。発表会って審査会っていや僕らは別に審査する立場じゃないんですよっていう話をした。発表会言われるともうそのとおりにですよ。敷居は高いんです。僕が思ったのはこのチラシを作ったときにまきますけども、これ各委員の方がそんなに敷居が高いというものじゃないんだよと。A委員さんが言われたように一人でやりたいって手を挙げられることも一つの案なんだよと、いうところの説明を各委員さんがして回らなければ企画は集まらないかなという。またちょっと間違えた方向で、例えば高額の企画であるとかね。何百万円もするようなのがタダで出来るそんなことはあり得ないので。間違えた方向で話がいつてしまうと困るなというのがあって。そこなんですよ。</p>
(A委員)	<p>そもそもまちプラでやることって住民自主しか。誰かがやってくれることになって、そこに集まりましようっていうものじゃないと思っているので。自主企画しか元々ないんじゃないんですか。そこをあえて自主企画っていう言葉を使うかっていうなんかちょっと敷居が高いような。</p>
(座長)	その発表会参加者募集、住民自主企画参加者募集でもいいかもしれんけどね。

発表をとばして。うしろのところは。応募されて来られたときにこの11月の日にお話だけちょっとチラッとしてもらえませんかというのを事務局で説明してもらおうとか。そこでチラシは作れそう？

もうちょっと意見聞いてみます。

(G委員)

僕はこれいいなと思いました。まだどういったことか分からないですけど、プラザでその日に例えば路上ライブとかそういうのをしたいってなったときに、当日行って審査がとったりするプラザなのかなと率直に思いました。

僕は結構音楽が好きで、まだ分からないですが、そういうふうになればいいなとチラシを見て思いました。

(教育総務課長)

なかなかこのチラシを見て一般の方が手を上げられるかなというところちょっとハードルが高そうだなとは思いますが。僕らこうやって会議で出て説明を聞いてるんで、例えばイメージしたら高校生の子がバンド組んでみんなの前でやりたいとかそういう感じなんかなというふうには思うんですけど、チラシが入ってきてそれを家で見てやろかっていうふうになるにはハードルが高そうだなというふうにふと思いました。仕方がないんですけどね。A4の両面とかこれでお知らせいうたらなかなか本意を伝えるのは難しそうだなとは思いますが。やっぱりこのチラシのほかにいろんな媒体を使ってPR何とかしていかないとダメなのかなという思いもあります。たかTVを使ってPRするとか。なんせこの紙1枚で手を挙げてねっていうのはなかなか厳しそう。まあほんとしっかりと作ってくれているし、伝えたいことをフルに盛り込んでいるんで大変やっただろうなと思います。

(B委員)

2点あるんですけども、この募集の意図とか中身はよく分かるんですけど、例えばこのやりたいと手を挙げる意思表示は何か様式とするんですか。それもあるんですか。

(座長)

これとは別に申込用紙が。

(B委員)

わかりました。

それと募集数が一般の部15企画まで学生の部5企画までとあるんですけど、私はもうこんなとっ払って50でも100でも層が厚くなるし裾野が広がるし、予算の範囲内とあるんですけど交渉をどんどんして行って、もうちょっとこんだけ削ろうとかもうちょっと上積みしてほしいとか皆でやり取りしながら最終的に予算の中で収まればいいかな。まるまる思い通りにシュッとこう通るのもおもしろくないというか、皆で意見言い合って一つは勝ち取ってオープニングでイベントとしてやってみようということで選ばれたらそれはそれでうれしいことだし、どんどん応募者うれしい悲鳴になるくらいね。だから何企画とかいってその応募の中で数が決まればいいんじゃないかな。初めからこっちで、何か窮屈いうかこの中に潜り込まないかみたいなことで締めつけか縛りがあるいうか。そういうのよりかもっと裾野を広くどんどん応募してくださいで、ウエルカムで、そんな姿勢も見せた方がいいんじゃないかと私は思います。

(座長)

今のところで募集数のところがありました。募集数を例えば省いてしまった場

合にももちろん予算があるんですけど、今言われたように個人で何かしたいっていうのはそんなに費用がかかるものでもなく、基本ベルディーの自主企画のように何百万とかそんなものはあり得ないので、あっても1企画に5万とか10万とかくらいのことかなと、使えるお金がね。それ以外の例えばチラシ代とかそんなのは逆に行政というかこのプラザが持つので、それ以外の経費っていうのはそこまであまりかからないのかなと思ってます。もちろん大きな事ができればいいんですけど。

募集数どうしましょう。今ちょっとお話出たんですね。これ一般の部15企画まで、学生の部5企画まで、まず一つの意図として一般と学生を分けたのは、一般の方ばかりに偏らないためにあえてしました。これ学生っていうのは小学校・中学校・高校・大学含めてです。小学生から来たらそれは一番うれしいし、中学生の企画でもあると思うんですよね。そのために2つに分けました。数的に15と5にしたというのは、私が想像する予算幅を数に落とし込みをしたところなんです。ただ今B委員の言われたいろいろと話がきてというのもありはありかと思うんです。いろいろと話がきた中で、この企画とこの企画は一緒にされたらどうですかとか、例えば展示会をやりたいて来たときに、まちプラは令和7年まではできないので、イベントとして加美プラザでやる。その展示会を八千代プラザでやるか、那珂ふれあい館でやるか、いろんなことも含めてできると思うんですよね。もちろんそれが10回できれば最高だと思うんですけど。募集数のところのほうで何かご意見があったら先に。

課長も言っていたら。

(生涯学習課長)

正直なところ、僕たちが考えるんだったらこういうのが絶対ないと思うんです。でもやっぱり住民の方が考えていただいてやっていくということで、ベルディーもそうなんですけど、この計画が良いからたくさん集まるんじゃないかと、たくさん集まった企画が良いっていうのが実態なんで、僕はこういうのちょっと思いつかないんですけど、発想的になしいうことはない。それでこれで募集があるんだったらこれは結果的に良い取り組みだったというふうになるだけのことなんじゃないかなというふうに思うのと、具体的にじゃあ1事業どれくらいの規模のやつまで提案いただいたらいいのかいうようなことはちょっと書いた方がわかり易いかなという気はしますけど。

(座長)

予算の範囲内で支援と赤字で書いてありますので、そこらへんはお話をする中でということになるんでしょうけど。まあPRも含めて。それとまちプラっていうのはただ単なる箱物じゃないんだよという。住民が自ら企画を考えて実行できる場所なんですよというイメージです。

もう一点は、これは僕の考え方が間違ってたら申し訳ないんですけど、生涯学習まちづくりプラザなんですけど、生涯学習はもちろん考えなあかんのです。ただそこを強調しすぎると偏りが出てくるというか、取っつき難くなるというか、運営的には生涯学習に関する事はもちろんするんですよ。でもそれをすべてやるわけじゃなしに、それ以外のこともできる場であるんですよというところの狙いなんかもあったりして。

(A委員)

募集数についてちょっと私の認識が違うのかもしれないんですけど、この募集

ってというのは発表会の参加者もしくは団体数でいいんですか。

だからあくまでこの発表会の参加者数、参加する企画の数っていう。

だから別にここに仮にこの発表会に漏れた企画があったとしても、それば別に勝手にやっていいわけですよ。だから勝手にいいといたらあらかじめもっとB委員がおっしゃるようにもっと広く応募しておいて、その中から20チームとかそういうのが選ばれるっていうものでもいいかもしれないし、どうなんですかね。発表するといっても参加するのがその発表する人たちだけだったら広がりも何かないような気もする。

(座長)

浅いは浅いね。

(A委員)

でもその中から何か特にこういいなっていうものについては予算的な支援をしながら、それはぜひ委員会として一押しの企画として実際やってもらうというものを選びたいということですよ。

(座長)

ちょっとその募集数のところは…決めなあかんね、決めといた方がいいね。

(生涯学習課長)

ちょっと一つ、このワークショップの10時から12時の間にこの20組の方たちに発表してもらいうことでよろしいですよ。

(座長)

1組5分程度の計算かな。

いったんは募集数を一般の部15企画、学生の部5企画でいかせていきたいと、よろしいですかB委員。それ以上に集まることは別にそこで断ることはしません。残します。残した中でこれまだオープン前なんで、プレイベントをするかせんかいうのはその中から5つ、6つ選ぶことは必要なんですけど、オープンした後でそれはもちろんできるんで、今回この発表の住民自主企画の第2回ワークショップに来てもらうというのはこの15と5いうところです。逆に割合的にはどうなんですかね。一般の部が15で学生が5っていうのは。それくらいの割合でいいですかね。別にそこは柔軟では考えているんですけど、別に子どもが7来たから2つ削ろうとかせんでもその分一般の部を削ればええかなとも思いながら、ちょっと柔軟性を考えながら取り組みをさせていただけたらと思います。ご了承ください。

C委員お願いします。

(C委員)

今のことに引き続きなんですけど、この11月12日のこの日に発表したい人が応募するわけですよ。だから12日に発表できる人。その企画がプレイベントに当選するとかプレイベントに採用されるとかいうのはまた別の問題ですね。この募集はこの日一日限りのことになるわけですね。住民自主企画オープンしたあとも募集されると思うんですけど、それとそのプレイベントとかに募集してこの日に発表したい人はする。私はこの日村のイベントがあって重なってるんで欠席しますが、私は別にこの日発表したくないのでいいんですけど、企画したいことはいっぱいあります。私勝手な思いなんですけど、やってほしいことはたくさんあるので、それはまたプレイベントとかオープンイベントなんかのときに応募しようと思ってるんです。チラシの件に関してはこれだけいっぱい書

いてあると目移りしてしまうし、どこに焦点を当てていいのかわからないというのが実際です。ただこのチラシで結構かと思います。

(座長)

ありがとうございます。D委員さん何かあれば。

(D委員)

チラシについてと最初におっしゃったので、私はこのレイアウトとか言葉とかに意見があるんですけど、まず“できる”という言葉と“募集”っていう言葉がすごいたくさん入っていて、すごい”できる”っていうのを言いたいんだろうなと思うんですけど、例えばこの2限目“あなたの「できる」が叶う”という私は日本語にちょっと違和感がありまして、できるっていう時点で叶ってると思うんです。裏も“あなたの「できる」を募集します”って書いてるんですけど、ちょっとわかりにくいかな。真ん中の方に赤字で書いてある“あなたの「やりたい」「できる」を発表してみませんか”って書いてあるので、やりたいの方がわかりやすくなって思いました。

あとワークショップと自主企画の発表のことがごちゃごちゃになっているので、表はワークショップの案内・説明で、裏は自主企画の募集っていうふうにわけて書いた方が見た方はわかりやすいのかなって。あとはプラザの平面図も裏に載せてここではこういうことできるんじゃないかっていうような、上に“俳句の発表会やりたいな”とか“料理コンテストやってみたいな”とか書いてあるんですけど、それを平面図とともに載せたらわかりやすいかなと思いました。

細かいんですけど、さきほど募集数っておっしゃってたんですけど、募集数って書くとこれだけしか応募できないのかなって思っちゃうので、発表できるグループ数とか、その日発表できる数がこれだけですよ、でも募集はどんどん応募してくださいねっていうふうにした方がいいかなと思いました。

あと一般の部15、学生の部5っていうのは、私は半々の方がいいかなって思って、これから使っていく子たちは学生の方なので。それと小学生とかが出るとそれを見に親も来てくれるので、そっちの方が盛り上がるかなと思ったりしました。

(座長)

ありがとうございます。非常にうなずくところが。

ちょっとキャッチコピーが“あなたの「できる」がふえる”これはこれで素晴らしい言葉なんですけど、そのできるにこだわり過ぎたんやね。住民自主企画については“あなたの「やりたい」を募集”の方が意味合いは分かりやすいわね。

募集数も発表される数みたいなグループ数みたいなのに変えれば済むことやしね。以上は採用させていただきます。

それと募集数のところで今半々、10・10言われました。未来を担う子どもたちのいうところは今までの委員会でも度々よく聞いてまして、僕もそれは大賛成なんですけど。確かに大人のかたはなくても自分らで企画を考えてされることもあるでしょう。

これだけはちょっと決をとらせてもらおうかな。

1パターンは一般の部が15、学生の部が5。2パターン目は一般の部が10、学生の部が10。1か2かどっちか選んでください。挙手で願います。

(座長)

1パターン目は一般の部が15、学生の部が5がいい人は挙手を願います。

(座長)	はい。2パターン目一般の部が10、学生の部が10がいい方は挙手を願います。
(座長)	はい、ありがとうございます。 挙手以外の早希ちゃんの意見は。
(副座長)	後でお伝えします。
(座長)	まあ一応でも賛成多数なのでごめんなさい。これで行かさせていきたいと思 います。あと現地視察は希望者のみです。 課長、当日どうなんでしょう。現場の方は。11月12日はどういった建設状 況でしょうか。
(生涯学習課長)	まだそんなに進んでる状態ではないと思うので
(座長)	いわゆる更地の状態
(生涯学習課長)	に近いと思います。
(座長)	に近い状態ですよね。
(生涯学習課長)	これ興味持ったのかたが来ていただいたらいいのかなとは思いますが。施工業者 が決まったりしますと施工業者さんと調整してという形で実現するのかなと思っ てます。
(座長)	施工業者はもう決まったんですかね。
(生涯学習課長)	議会で承認されるということなので、まだ発表はできないということでご了解 いただきたいということ。
(座長)	はい。
(E委員)	私ちょっと長いこと失礼していましたので、皆さんの意見がものすごく白熱し てるのでちょっと温度差を感じながら、うんうんなるほどと思いながら軌道修正 をしながらここに座らせてもらっています。また次回からしっかりと意見持って きますので、今日はとてもいいお話を聞けたので良かったなと思いました。あり がとうございます。
(A委員)	委員長意見いいですか。やっぱりちょっと私気にかかっているのは、この住民 自主企画発表会参加募集、住民自主企画という言葉なんですね。これ小学生じゃ 多分理解できない。“こんなんではけん発表会” こういうのはどうですか。副題 でもいいと思います。
(座長)	こんなんではけん発表会。ええんやないですか。

そうやね。住民自主企画。うーん、何かいい言葉ないですかね。

なるべくそのまわりに付随的に例題じゃないんですけど、こんなことができるよみたいなことを例えば俳句の発表会をやりたいなとかわかりやすいようには見本的には書いたつもりなんですけど。

確かに住民自主企画いうたら、固いは固いな。大人にはわかりやすいんやけどね。まあベルディーなんかであるんで。ある程度でもね最初に言ったように初めてやることなんで、各委員の方とかが説明にまわりながらとか、B委員とA委員で掛け合いの漫才をしながらたかTVでね、PRしていただくとか。

ちょっとこのチラシだけじゃあれなんで、確かにあるんですよ。そういういろんなPRはせなあかんと思ってるんですけど。

ちょっとA委員さんアイデアが…ええかな。

(A委員)

はい、結構です。

(座長)

考えるだけ考えさせてもうて。皆さんからもご意見これやって浮かんだらすぐに事務局にご連絡を。ただ2～3日しか日がないので。今日会議の途中でもこれやっていうのがあったら挙手を願います。

ワークショップの目的です。ここをしっかりとまず押さえとかな何のために第2回ワークショップをするんやということになります。僕が考える目的を2、3言わせていただいた後、皆さんからもワークショップの目的であるとか、いやそれ違うよという話とか言っていただけたらと思います。

まず1つは生涯学習まちづくりプラザが令和7年春にできますよというPRです。あと2つ目はキャッチコピーであります“あなたの「できる」がふえる”というキャッチコピーのとおり、住民が主体的な活用をいただくと。住民が主体的にプラザを活用いただくそのアイテムの一つとしてこういった住民自主企画というものをオープニングに持ってきてます。3つ目です。町民の中にはいろんなできる方がたくさんあります。可能性を持っておられる方がたくさんありますし、小学生・中学生・高校生の中でもいろんな未来を持ってる子がたくさんいます。それは何かしらこのプラザの場で出会う、また集うことで新たな発見というか、新たな仲間づくりであったり、新たな喜びであったりそういったものがこのまちづくりプラザを賑やかに楽しいわくわくするような施設にするんじゃないかなと考えてます。その私的にはこの3点をこのワークショップの目的だと考えてます。これ以外で付け足しというか何か目的というかあれば、何かワークショップをするために委員の皆さんにもご協力をいただくので意識の統一をはかっておきたいと思えます。

これは順番にマイクを回して。時間のこともありますので。

(B委員)

この3点でいいと思います。ほかに思い浮かびません。

(C委員)

同じく。

(D委員)

特にございませぬ。

(生涯学習課長)

特にございませぬ。

(事務局)	特にございません。
(E委員)	ありません。
(A委員)	特にないといっているのかどうか分かりません。
(F委員)	趣旨は非常によくわかるんですけども、今までの加美プラザ、八千代プラザでやってた活動とここでの活動とどう違うのかっていうようなお尋ねがあった場合はどのように答えたらいいのかなと思って。いろいろありますでしょ。ベルディーはベルディーあるんですけど、観月会に入るグループもありますし、杉原谷小学校の横でも何かされてるんですよ。いろんなところで活動されてる方と、この新しいプラザとこの違いっていうのは何ですかってお尋ねがあった場合どのように答えたらいいでしょうね。
(C委員)	<p>私も実は自主企画っていうのが出たときに、いまF委員が言われたのと同じ事を考えたんです。自主企画だったらベルディーとどう違うんやろうとか。今、中プラザとかでやってる活動とどう違うんだらうか。それこそふれあい館でも子ども対象にいろんなことをやっているの、どう違うのって。今までやってきたのと同じかなと思いつながら聞いてたんですけど。で、この住民自主企画っていうこの漢字、子どもには分かりづらいとは思いますが、例えば中学生くらいになったら分かると思うんですね。小学生の子には分かりづらいとは思いますが、小学生の子で、もしこのワークショップで発表したいっていう子がいたとしたら、きっとその子は家族に聞くとします。住民自主企画って自分も発表できるのとか、どんなことを発表したらいいのとかそういうことを聞くとします。それで親がきっと説明してあげるとします。だからこれ見ただけでは幼い子には理解できないと思うんですけど、参加できなくはないと思います。私は。</p> <p>話が逸れましたけど、特徴づけなければいけないというふうに私は思わないんですけど、ただ私はすごく大きなことをしてほしいとは思っているんですけど、私が提供したいというか、やってほしいと思ってることはめちゃくちゃお金がかかることなんですけど、でもその企画出します、私は。通らなくても。だからどう差別化するっていうか区別するみたいなことは考えてないんですけど、ただ今までいろんなところでやってきたこととそんなに変わらないこと、例えば中プラザで今やってることをここで引き続きやるというのは、私はもう当然じゃないかと思うんですね。今、活動されてる方、当然ここを利用して今まで通りに活動したいというふうに思ってると思うので、どう違うのかなというふうには考えましたが、これまでどおりでいいのかなと私は思います。</p>
(副座長)	<p>ちょっとホワイトボードをお借りしてよろしいですか。私の頭の中の整理もちょっとしたくて、これの話がきた委員会をダブルブッキングで欠席というちょっとお恥ずかしいことをしてしまったので聞いてないので、改めてもう一回聞きたいなと思いつながら。</p> <p>やっぱりまちづくりプラザに繋げていく企画で、座長的にはゴールっていうか最終的にまちづくりのプラットフォームにしたいみたいなことが最終ゴールです</p>

よね。まちづくりプラザにいろんな人・情報・企画・アイデアがいろいろ寄ってみんなでわいわい楽しくまちづくりとか活動ができる場所っていうのが最終ゴールのはずだと思うんですよ。それに向かって座長が前からおっしゃってたのは、企画の組合せとか、人と人との掛け合わせっていうのをこういうワークショップの場で皆でお互い発表して、それから相乗効果を生むというのがまあ裏の目的みたいになって、ワークショップの場で発表をされる。それがワークショップですね。そのためのアイデアを集めるためのこれやという理解をしてるんですけど、それは大丈夫ですか。

(座長)

うん

(副座長)

ありがとうございます。

ハードルを下げて皆のやりたいことは平たく広くいろいろ募集したいからの住民自主企画。それをするに当たっての企画、これを皆さん今お話されてて、企画のレベルがあると思ってるんですよ。1つはさっきおっしゃってた中プラザで今やってる生涯学習講座。生涯学習課さんがされて連続講座だったりとか、これは有料・定期・連続っていうしっかり学びたいもの。生涯学習というこの生涯という意味合いはいったん置いておいて、有料であったり定期的に先生がいて講座を受けるような講座と、これすごい言い方あれなんですけど、このチラシのところの白い吹き出しをちょっと整理したいと思って。この有料・無料とか考え方の整理なので必ずしもこうではないと思うんですけど、場所貸しのイベントとガッツリしたイベント、この3つに分類するとしたら、左上の吹き出しから行くと、俳句の発表会は場所貸しだと思うんですよ。発表したい人が場所を借りてまちプラでやって皆に聞いてほしい。歴史の勉強会はどっちかいうとこっちな。しっかり皆で学びましょう。キッチンカーはイベント企画を組み立てて、何人かの人か例えばグループとかがしっかり企画をたててイベントする。で、図書館とコラボで古本市も3番がつつり企画かなという感じで、私たち学生が中心になっておもしろい数学勉強会を開催したいは2番かなみたいな。参加費も無料、教える人も講師料発生しないとかそういう感じで、多可町の食材で料理コンテストは3番企画しっかりしてやっていくイベント。最後の安全安心なまちをテーマに防災イベントをやってみたいなも3番だと思うんですよ。こんな感じで企画にもやっぱりレベルというか階層があって、それのここは多分まちプラの運営母体がやっていく企画。どんどん人をつなげて行って行って、今回この住民自主企画でやるのはこっちとこっちなみたいな。そんな整理であってますかっていう。けどまちづくりプラザっていう冠をつけて自治体からお金を出してやってるからには最終やっぱりここに繋げていく流れが必要かなと思うんですよ。その辺の明示をしてあげてほしい。だからなんていうかな。流れですよ。自分がやったことがどこにこうなっていくのとか、座長には非常に申し訳ないけど漠然として、今何を出していいのか分からないとか、実際具体的に考えたときにどうなるのとか、こちらとしてはやるからには、最初ここに繋げる人材を発掘するとか、まちづくりプラザですとやっていく企画に昇華させていくためのルートを持っておかないと、例えば審査とかになったときにそういう目を見たほうがまちづくりプラザのためになっていく企画になると思うんですね。なので課題としては、この流れ、こういう企画がこうなっていくようになってまちづくりプラザのこういうものに

なっていくよとか、こっちで持っというたりとか、発表会でその人とか情報を繋げていくっていうのは私はちょっと時期尚早かなと思います。まちプラを運営していく中でプラットフォームに集まってきた人や情報をあそこ組み合わせたらいいやんっていうのを、まちプラを運営した後の方がいいんじゃないかと思ってます。令和6年にやって、その人も結局オープンまで間があるのでモチベーションどうやって続かせていくのかなとかも思ったりするので、この企画自体が時期尚早だとは正直思います。なのでもうちょっとこっちの企画をもうちょっと練ってから出すべき。できたらオープンに間に合わせたい気持ちもあるんだけど、オープンしてからやっぱり場所を見てからとか、こんなことができそうだなみたいなのをイメージを持ってもらってから自主企画を募集した方がいいんじゃないかなって思いました。

(座長)

ありがとうございます。

違うようで一緒なんですけど、いま若干早希ちゃんは次の運営のところまで大きく含めながらの話をしてくれたんでありがたいなと思うんですけど。

ちょっと先に加美プラと中プラとか八千代プラザの中でやってることっていう話がありましたよね、間違えてたら間違えてると言ってください。まちづくりプラザ一つの建物ができます。八千代プラザに八千代プラザがあるように、中区にこのまちづくりプラザがでは同列だとは考えていません。多可町のまちづくりプラザ。けっして加美プラも八千代プラザも否定はしません。そこで活動されてる方も否定もしないし、そこでされてる方もこの新しく作るプラザで活動をしてほしいし、もしくはいま俳句の会なんかだったら加美区にあって中区にあって八千代区にもあって3つに分かれてされてます。そんなのの発表会なんかを合同でとなると結構な場があるので、多可町のこのまちづくりプラザでしていただきたい。各区に分かれたそういった小さく見ていくと、例えば将棋クラブとかなんかあるんですよ。それが高齢化になったり人が2、3人になったりして結局なくなっていったるんです、正直。組織はあるけど活動がないとかできへんとかいうのをたくさん聞きます。今回この件を受けるにあたっていろんな人に話を聞いて、そういった文化的な連盟とか会の方に聞くと、やっぱりなかなか難しいんですよ活動が。それはじゃあ同じグループが中区にあって加美区にあるんだったら一緒にされたらどうですかとか、それかもしくは別々にありながら発表する場、例えばコーラス隊なんか今回西脇のアピカやったかベルディーやったか合同でされましたけど、そういった場の提案だったりとかいうのをコンセプトしていくのが生涯学習まちづくりプラザの次の組織とかいうかになってくるのかなというように思ってます。だからちょっと言いにくいんですけど、けっして僕は中プラを作ってるつもりは一切ありませんので、中プラでされてる方はもちろん中プラでされるんですけど、中区の方だけの中プラを私は一生懸命考えてるわけでは一切ないのでそこらへんは皆さんも一緒だと思うのでよろしくお願いします。ある方が私に「中プラはいつできるんや」とか「中地域局はこの中にあるのか」とかありました。そんな建物は一切作る気はないんやと今そんな話は一切してないと私は言います。それが皆さんの意見ともしかしたら違うかもしれないけど、僕はその意見でさせてもらってます。まずそれが加美プラと八千代プラとこの多可まちづくりプラザとの返答にさせていただきます。

次に副座長の方から出てきた住民自主企画というのがちょっと早いかなと考

るのがという案件を考えます。これはまた非常に掘り起こしです。

(副座長)

6年度やらないといけない理由はあるんですか。

(座長)

僕的に思っていたのはまずプラザのPR。僕らの中では僕も個人的にはごっついプラザ、この生涯学習まちづくりプラザっていうのは住民の方の極端に言えば8割、広報見てる方、たかTV見てる方ほとんど知ってる。前回の委員会でも言ったんだけど、まあこの愛称募集のチラシを近くの人から配っていったんだけど、知り合いから。まあなかなか知らない。何これっていうところがあったんで、まず1つはプラザって実際に建物ができて何ができるの、何のための建物なのっていうPRが1つ。それは何ができるのって住民が主体的に考えたものが活用できるんですよ。貸館にしる何にしるできるんですよというのが答え。で、住民自主企画をプレイベントで5~6個したい。その5~6個したいというのは、5~6個することによって必要な備品、物以外にボランティア組織といたらあれなのかもしれないけど、例えば託児ボランティアであったり、図書館との僕なんかは図書館と一緒に共同で古本市が多可町でしなくてしょうがないんで、そんなことをするとき読み聞かせグループと。今もちろんあるのでいいんですけど、そういったボランティア。そういったこの運営をするためにはいろんな助けをいただく団体。中で働く人だけじゃなしに。そこら辺も見つけることができるのかなと。それって案外今ありそうでないみたいな。ベルディーを作られて音響設備の方が今ボランティアでなしに有料で入られてるんやけども、もともとあれは音響なんかはどないでもなるやろと。職員でもちょっと習いに行ったらできるやろという発想からはじまって、実際にやるとんでもなく、これは職員やボランティアでは無理やでと。プロ呼ばなあかんでという話になったっていうのを前に宮崎さんからも聞いて、その場所場所でそういったものがある組織があるんやろなと思いつつ。それを前もってオープン前にわかっていれば、そういうのを募ったり育てたりいうことができるのかなというのがあった。そこら辺が答えなのかな。

ほかの方はどうですか。

(G委員)

難しいですね。副座長が言うようにまだ場所が見えていないのに、どういったことができるんだろうみたいな。こうイメージが沸かないっていうのはちょっと思いました。でも、こういったことができるんだよっていうそのプレイベント、PR活動みたいな感じで時期は分からないですけど、することはいいことだと思って単純に思いました。

(F委員)

今、座長の方からいろんな説明を受けて、言われたように名前の募集を持って回ったときに「どこにできるんやいな」とか本当に本当にご存じない方がたくさんあって、なんかその会にあんたは入ってんやないことだけ、どこかで見たでって人の名前は見てるんやけど、まちづくりプラザの本当の意味っていうか、そういうのまだまだ周知できてないので、建物はないかもしれないけれども、だいたい私たちそういうのに遭遇してないものばかりですよ。若い人から年寄りまで初めてのことだから見えないんですよ、どういふものか。だから、そういうこともできるんかっていうような形で、今、座長が言っていたように、ちょっとたかTVで今言われたようなことを話していただいて、座長さんが話

をしていただいて、そういうのがあるのかと私たち町民は思うんじゃないかなと思うんですけどね。今、話を聞いてPRっていうか本当に見えてないので、会に来てるものでもぼんやりとしか分かってないというのが事実で、今すごい力説を聞きまして、なるほど建物は見えないけれど思いは見えるっていうか、そういうイベントでもいいんじゃないかというようなことを聞いて思いましたので、ぜひ、たかTVで話をしてください。

(A委員)

私がまちプラのイメージとしてこんなことできたらいいなと思うのは、概念です。概念はみんな多可町に振り向かせたい。それを本気でやりませんかという事です。

(E委員)

私もいま座長のお話を聞いて、この住民自主企画というものがアスパル2階研修室でするっていうふうになってるんですけども、例えばバンドをしたいって4~5人のグループがここ3分の1ほどバーッと取ってしまったら、観客とか見てる人はどこにいれはいいんだろう。それこそ小学生の10人、20人くらいのダンスをしたいって来たときにどうやって見せる方と見る方とどういうふうに応援してあげたらいいのかなと。ちょっとお部屋のことを考えて不安にはなったんですけど。キッチンカーももし何台か来てしますっていったときに、上と下との交流というか、あんまり一緒にやってるっていう一体感がちょっとないんじゃないかなというふうにふと思いました。

(座長)

例えば音楽で人は繋がるんです。音楽は年代を関係なく繋げたり、平和の心を呼び起こしたり。音楽でもうるさい音楽もあれば演歌があったり童謡もあったりクラシックもあったりするんですけど、例えばそういうグループがここで何かしたいってときに、一堂に会して別に大会議室でワーワーガーガーしたければしたらいいんですけど、例えば芝生広場でギター1本で弾いてる方がいる。図書館の中でクラシック、バイオリンとヴィオラとそういうのはできるじゃないですか。そういうのを複合的に。

(E委員)

それはあれですよ。今回の12日の

(座長)

あ、12日。それは厳選します。前もって来ます。だから必ず僕らが委員会の中でこういう話の場を持つところはあるんです。いきなり一発目がワークショップで発表で、僕らが何も知らないところで発表ってわけじゃないです。そのためにちょっと募集期間が短くなってしまってるんですけど、必ずこういうのが来ましたっていうのをします。その中でまず一つ考えなあかんのは建物ができる前に、でもどこかの場所でプレゼンのできますよねっていう企画どれかなとか、この企画とこの企画は一緒にもし声を掛けてあげればできませんかねっていう、そういうのをちょっと考えたり相談をまずさせていただいて、それから実際に発表会の方に行く形になるので、大人10組集めるからいうてすべてが一概にバンド、バンド、バンドということには絶対ならないように調整をする場。ただそれ例えば断るわけじゃないですからね、もちろん。

(生涯学習課長)

その日に何をするかいうのとちょっと分かりづらいですよね。12日にする

	のは応募いただいた、こういうことを私はしたいですよということをプレゼンしていただく場ということですね。また自主企画は自主企画で募集するってということですね。そういう意味なんやろなっていうことでもよろしいですね。再確認です。
(座長)	そうです。それとこれをもっと大きい字で書いたらよかったですけど、“住民自主企画関係者以外の方ももちろん参加OK”そこをもっと大きく書いておけばよかったですけど、プラザって何ができるのって分かってない方がまだまだたくさんあったり、プラザが分からない方があるので、私たちこんなことやりたいて発表することによって、私らもこんなんやったらこんなんができるやんみたいなことも具体的にもうちょっと分かるのかなっていうところも入れてるんですけど。
(生涯学習課長)	こういうのがしたいねんいうのをそこで発表する人をいま募集して、こういうのがしたいねんいうのをその日発表する。こういうのがしたいねんいうのができるというのが分かるのが、いつなんかっていうのはちょっと見えないのかな。
(副座長)	発表してどうなるのかどうなっていくのかみたいところは。
(座長)	発表されたら、令和7年の春以降必ず実行できますやん。
(生涯学習課長)	できますやんということになるんやったら、そこでもう審査がほしい終わってかなあかんということやね。
(座長)	審査
(生涯学習課長)	こういうことしたいねん。で、発表します。そこへ仮にこういうことがしたいねんいうて応募がされる。していただく。じゃあここで発表するイコールもう決定ですよという段階なんです。
(座長)	はい。その企画に関してはね。
(生涯学習課長)	この企画に関しては。というような流れになるということですね。
(座長)	そのために1回委員会を持ちますから。 ただそこに審査っていう言葉は使いたくないんです。僕らが選別するような感じでは思っていないんです。
(副座長)	じゃあ発表して1年空いて実行されるっていうことですね。令和7年オープン以降。
(座長)	令和7年、そうですね。それはもちろん認識した上で申込みをされてるんで。
(副座長)	それは分かりますか。ここで。令和7年実施っていうのがちょっと見えないな

	とは思ったので流れの明示をどういうふうに
(C委員)	6年のプレイベントでは
(副座長)	そこも私もいま読んでてプレイベントで実施する
(C委員)	実施されるって私は解釈したんです。
(座長)	<p>ああ、先に全部できてしまうように。</p> <p>そしたらその文言を考えたらいいんやね。その他のところの。“オープン前、令和6年度にイベントを開催する予定です”この文章だけやね。その文章をちょっと考えます。それ以外は案としては令和7年春まちづくりプラザができてからの開催になりますよというところももうちょっと分かりやすいように。</p>
(C委員)	<p>プレイベントにしても1年あるでしょ。令和6年度にプレイベントを開催するところに書いてあるので、その1年の間に例えば毎月するのか何回するのかによっても違うと思いますし、それからオープンイベント7年にオープンして、多分1年くらいの間にはきっといろんなイベントを企画されると思うんですけど、そこはまた別で募集されるのか、それもはっきりと書いて</p>
(座長)	<p>そこは書きたいんですけど、次の準備委員会、実際に今度立ち上げる準備委員会が次できますよね。ここでいったん例えば次のあれで今後の予定が出てくるんですけど。いったんここあと3回か4回くらい会議して、答申という形で提案書という形で、委員会をこの1月下旬くらいに解散でもっていこうとする。来年度に関しては、実際のプラザの立ち上げの準備委員会のほうに回したいなと思ってます。それが実際に今度実働部隊になります。そこにあずける形になります。</p>
(C委員)	<p>そしたら今回の12日で発表された方、いちおう選ばれた方、発表されるというふうに決定された方の企画はプレイベントで必ず実施されるという確約はないわけですか。そこをはっきり。</p>
(副座長)	<p>それだったら来年の運営の委員会でやるべしだと思いました。</p> <p>責任じゃないですけど、結局の主体が解散してしまったということになる。</p>
(座長)	<p>プレイベントをね、全部したいんですけど予算的なこともあるじゃないですか</p>
(副座長)	<p>もちろん。</p>
(座長)	<p>それと1番は企画内容ができる場所があるかどうか。相手さんのこともあるので、そこらへんも申込みをされた方の希望に添った形でいう形なので、そこら申込書に書けるようにはしてるんですけど。例えば令和6年度中にできます。令和7年の何月にできる開催したいとかそういうのは書けるように申込書に作ろうかなど。</p>

(C委員)	ああ、その企画を持ち込んだ人。
(座長)	企画を実際に出されるときに。
(C委員)	ここに企画の実施を相談する場合がありますというふうになってるので、決定ではないということなんですね。相談させていただきます。だからこの会で私たち
(座長)	その相談じゃなしに、この文章で書いてある相談は事務局との相談です。申込書の中での。そこはちょっと文面的には変なんですけど。
(C委員)	ややこしい
(座長)	例えば25案出てきました。それを20に絞らなあかん。それを審査せなあかんというのはしたいですか。
(C委員)	そういうことではなくて
(座長)	僕的には25案出てきたら25案全部をさせてあげたいです。ただ中にどうしてもそれはちょっとっていうのは出てくるんですよ。必ず。それは委員会の中で話し合っ、それはちょっとという部分を話し合っ、その企画を出された方と僕が話を合っ、この企画はこういう理由があっ、ちょっとこのプラザではできませんとか。
(A委員)	すいません。いま12日の話なんですか。令和7年の話。
(座長)	令和7年の話。
(A委員)	令和7年の話、運営委員会はないからそこをどうコミットする
(座長)	でもそれを言い出すとワークショップ自体が頓挫してしまうので
(A委員)	ワークショップはワークショップでいいと思うんですけど、こんなことできるんやとかいろんな刺激を受けるし。
(座長)	でもそれは発表するだけでええの。
(A委員)	いやいや、それで発表してその次に続くものであつたりとか、イベントでの声かけがあつたりとかあるわけでしょ。しかも何か予算的な支援も受けられるとかメリットはあるのかなと思いますけど。だからその運営委員会でその企画についてそのあと運営委員会自身がなくなるので、実際にそのイベントをやるときにそこの部分っていうのはそのあとを引き継がれる準備委員のほうに引き継いでいく
(座長)	引き継ぐ形になります。

(生涯学習課長)	例えば企画じゃあこんなん知らんかったから僕もそのとき出したのにいう企画の持ち込みはもう来年以降はないということですか。そうではないね。
(座長)	そこは準備委員会ができてその判断によります。
(生涯学習課長)	ということで、ここではちょっと考えない。
(座長)	<p>住民自主企画が、最初に言ったようにオープニングイベントとして考えてます。僕は個人的に例えばずっと中にいてしたければ、まあ行政にはどうかかわらんけどもずっとやりたいことってあることであることは間違いない。もちろん予算的な部分をどう組織として補うかっていうのは、例えば次の会議の話になってくるんですけど、どういう組織を作るかになっているんですね。例えば生涯学習の講座いま開いてますけど、ああいうのを委託してまちづくり運営してるところがね。委託してっていうのも予算としては取ってきたり、いろんなことができるんですけど、それは次の段階の話なんですけど。</p> <p>まずオープニングイベントとして住民が気軽にここに集まったりこんなができますよこういうのができますよっていうのをいうイメージなんですけどね。</p> <p>しんどい。</p>
(副座長)	<p>と私は思います。それをやるんだったら、来年度ほんまに一緒にやる企画を募集します。私たち来年のその準備委員会と一緒に。どうしてもこういうのって運営の方向性とかと一緒に検討しないといけない話だと思うんですね。それで一緒に皆でつくりあげる企画を募集します。運営委員会と一緒に住民さん・グループ・個人が協働してちゃんとした企画にしましょうか、するのかサポートしていつやるのが一番だと思います。ほんとにこの委員会がなくなることを前提に今募集しても切れてしまうと思います。1年も空くし。</p>
(座長)	僕は切れていいと思てん。だからオープニングイベント。
(副座長)	切れていいんだったらやる意味がないんじゃないんですか。
(座長)	<p>成熟したイベントをみんながみんなできるかいうとそうでもないと思うんですね。自分がやりたいけども、例えばこんなイベントをやりたいって考えてやった。お客さんが2人しかこうへんかった。こんなことはザラにあるじゃないですか。じゃあそのイベントがあかんかったんかどうか、その人にとって。僕はそのやりたいっていうその気持ちに間違いはないと思うんですよ。じゃないのかな。</p>
(副座長)	だからそのやりたいをサポートしてあげたらいいと思うんですよ。
(座長)	<p>サポートできるのは準備委員会ができて、実際にオープンしたときはきっちりサポートはできるんですけど、極端に言ったらいま20組募集するのはきっちりとは100%はサポートできないですよ。このメンバーがね。でも準備委員会であつたり、その後を引き継ぐ組織であつたりはサポートはするんで、けっして放</p>

	り出すわけではない。
(C委員)	2限目の“あなたの「できる」が叶う”っていうこの“叶う”はいらないんじゃないんですか。叶うかどうかはわからないでしょ。だってこれは発表してもそれは夢だけに終わってしまうかもしれない。実際には採用されないかもしれない。
(座長)	前提として発表したらするっていうことで
(C委員)	だってそれはここでは決められないです。私たちにはそんな権限はないし。
(座長)	だからそれは次の提案書を出すときに記載すればいいことで
(A委員)	すいません。まちづくりプラザできたら、まちづくりプラザで1人でフラツときて何かするのに企画書出さないとできないんですか。
(座長)	ちゃうやん。何回も言ってるように、実際に会館ができたら別にそんなんはできるやん。
(A委員)	だからここで発表した人もしたためてたことをできるわけですよ。
(座長)	もちろん。会館ができたあとはね。できる前だから。
(A委員)	できる前は何かやるんでしたっけ。
(座長)	おりた方がええ？
(副座長)	じゃあそこは普通に総意をもってなので多数を取ったらいいと思います。私は
(B委員)	すっきりしないてないのは、オープニングイベントとして発表会をするということになるでしょ。6年まるまる1年間はまだ施設もできてないんですけども、イメージとして発表は全然できてないからどっかプラザかどこでも使ってやりたいことをやろうっていうことも含めてということなんですか。
(座長)	そうそう
(B委員)	もう6年から発表者は交渉しながら好きなときに好きな場所で発表をやって企画を盛り上げていこうということなんですか。
(座長)	それがPRになるじゃないですか。
(A委員)	この12日の発表会というのは、今こういうまちプラができると、ここ何するとかなんと。図書館があるのはわかる。何するとかなんていう。
(座長)	結局その何するとかなんやというのは、僕に言わせれば第1回目のワークショ

	<p>ップで終わってるんですよ。第1回目のワークショップがそれだったでしょ。</p>
(A委員)	<p>具体的なことって何か出ましたっけ。</p>
(座長)	<p>まちづくりプラザの説明を込めたワークショップというのは、第1回目でいろんな方に集まっていたいて、ここで何ができるかな、何がしたいかなっていうのを話してもらいました。もうそれが第1つ目なんですよ。それをまたやるとまた一緒なんですよ。</p>
(A委員)	<p>いやいや。ここでやってることが、それを具体的に企画に落とししたベースのものでより見えるんじゃないかっていう効果を狙ったものじゃないんですか。</p>
(座長)	<p>そうそう。</p>
(A委員)	<p>ですよね。</p>
(座長)	<p>個人的な意見で、私はもう全部意見は言ったんでないんですけど、個人的に今からどうするかを取るの、採決で決めます。      言いそびれた言葉とかないですよ。大丈夫ですね。後腐れがないように。      はい。決めます。住民自主企画を第2回ワークショップにおいて募ってするというこのチラシどおりのパターンでいきますよという方は挙手願います。      これは座長もあげれんのか。</p>
(座長)	<p>行政はそれ手を挙げてないということ？</p>
(事務局)	<p>私は違う意見です。</p>
(座長)	<p>ということやね。      第2回ワークショップはしますけど、この住民自主企画というものはしないに賛成の方は挙手願います。</p>
(座長)	<p>7      じゃあ、住民自主企画はしないということで決定をさせていただきます。      では第2回ワークショップを愛称募集と建築現場の視察だけでしますかしませんかという話になります。      何をすればいいのか。もしくは極端に言えば第2回ワークショップ自体しなくていいというところの話になります。      ご意見のある方。</p>
(副座長)	<p>11月12日の建築現場ってどんな感じですかね。工事が実際に入ってるのか、更地のままざわざわしてるのか。      あ、更地。      私の意見はもう少しあとにして、建物の工事現場に入ることってあんまり一般</p>

	<p>方はないので、なので建ちそうだなみたいな大きい重機が入ってたりするとがぜん小学生とか幼稚園の子たちも喜ぶので、そういうときに視察メインでワークショップではないですけど、現場見学みたいなその方がイメージが湧きやすいのかな。そのあとにちょっと意見交換会があったりしてもいいとは思いますが。</p>
(座長)	<p>いいと思います。 ただそれが残念ながらこの委員会の解散後かな。</p>
(副座長)	<p>じゃあそういう本格的なのは1月以降。</p>
(座長)	<p>来年の春とかになってしまうんで。</p>
(副座長)	<p>ああ、そうか</p>
(座長)	<p>だから現場視察をメインにできなかったのはそれが一つ</p>
(副座長)	<p>なるほど。</p>
(教育総務課長)	<p>この時期11月12日という日をいま設定されてます。ワークショップということで住民主体でやっていただくというのは非常に僕らからしたらすごいなと思ってます。その中で言うところのまちづくりプラザをPRしていく上ではワークショップというのは非常に大事なかなとは思いますが。ただ先ほど言ったように、どういう形でやっていくかというのはもう少し詰めたほうがいいのかなとは思いますが。で、時期もそうなんですけど。一つだけここであるのはプラザの愛称発表というのがあると思うので、ある程度時期というのは限定されてくるのかな。あまりずらすこともできへんのかなという思いもあります。締め切りいつになってたんですか。</p>
(生涯学習課長)	<p>年内です。工事に入って銘板の作成というのがあるので。</p>
(教育総務課長)	<p>いや、愛称の締め切り</p>
(事務局)	<p>今月末</p>
(教育総務課長)	<p>ということはあんまりワークショップを遅らすと締め切ってから</p>
(座長)	<p>これがたしか前回の委員会でいろんなまつりとか行事ごとが、いま体育祭も10月に延びてたりするので。それで最終的に11月12日が概ね何もない日になったはずなんです。これ以上延ばすと9月末で締めた愛称募集をひた隠しに隠しておかないとあかんで、それはつらいやろというのが一つかな。</p>
(教育総務課長)	<p>ということは11月12日ワークショップという形で愛称発表、それとまあなかなかないとは更地でこう絵でも描いてこういう形になりますいうのを最初たぶん言ってたと思うので、そういうような形での一度そういう現場視察いうのもありかなとは思いますが、その真ん中に入るものをどうするかというところは</p>

、僕も途中から入ったので1回目のワークショップをあまり知らないんですけど、もう少しまちづくりプラザのイメージを持ってもらうための仕掛けを何かできるようなことがないのかなというように思うはありますけど。ワークショップ自体は住民主体でやっていただけてるとい、ほんとにすごいなと思ってますので、まちづくりプラザの令和7年4月オープンに向けての一步一步こう近づいてるという上では、一つの事業としては何らかの形でやっていくのはいいのかなとは思いますが。内容については1回目と被るようなことになるのかならないのかわかりませけど、やっぱりこのまちづくりプラザを少しでもイメージできるような何かの動きというものを持って行けたらなと思います。

(B委員)

ワークショップまでもっていけるかどうかわかりませんが、プラザの愛称発表はもう旬が抜ける前というかこの時期にしなければならないかなと思います。

(座長)

プラザの愛称発表だけ？

(B委員)

ワークショップまでもっていけるかわからないけど、愛称発表はもうこの日。

(C委員)

私もそうなんですけど、またぶり返すみたいになるんですけど、住民自主企画の発表会っていうのをなくしても、新しいプラザができたならやりたいことこんなことができますよってことを見せてもらったら、実際。私も考えがまとまらないんですけど、例えばこんなことがやりたいっていう募集をかけますよね。実際こんなことをやってるけど発表の場がない。今こういうことをずっと続けてるんだけど発表の場がない、そういうのを新しいプラザができたなら皆の前で発表することができますよ。プラザでずっと活動できますよみたいなことを実際見せていただいたら。

(座長)

見せていただくというのは

(C委員)

具体的に。例えば

(座長)

今やってるけども発表の場がないっていうことになってくると、今やってることというのは、もう実際にできあがってるグループであるとか、大人のグループになりますよね。小学生・中学生とかいうのはちょっと出てきにくいんじゃないですか。

(C委員)

かなあ。例えば私の知り合いが2人のお嬢さんをバレエ教室に通わせているんです。いま一番近いところで言ったら西脇にしかないの、西脇に通ってるんですけど、それがプラザでバレエ教室を開いてもらったらめちゃくちゃ助かるないことは聞いています。だからその人たちは通っているバレエ教室で活動してるし、それから発表会があったらどこかの会場で発表はしてるけど、町内で自分たちがやってる活動を発表しているわけではなくてそれを見てもらってるわけではないので、例えばそういう子たちに踊ってもらう。こういうバレエ教室みたいなのをやりたいと思ったらできますよみたいな。

(D委員)	<p>私はワークショップというものじゃなくてもいいかなと。自主企画の発表会をなしにするなら、プラザの愛称発表と建築現場この計画が残るんですけど、これをたかTVで番組にしてもらったらいいかんかと思って。1限目、2限目これを発表会じゃなくして、さっき早希さんが説明してくださった生涯学習講座があったり、場所貸しできたり、イベントもできたりっていうのを座長と副座長で。さっきもチラシ配っても知らない方が多いっていうのをお聞きしたので、たかTVでこんな建物になるんですよとか、こんな設計図になってるんですよとかを見せつつ、こういうことを考えてこれをつくってる最中なんですよって、現場はこんないま更地ですけどみたいなそんな番組があったらいいかなと思います。</p>
(座長)	<p>たしかにD委員が言われるように、もしこの2限目がなかったらワークショップを僕もする必要はないのかな。例えば10月広報で愛称は委員会でこういう形で決まりましたとか、たかTVで決まりましたとかだけでも十分ですもんね。</p>
(D委員)	<p>でも広報は読む方が限られてるので</p>
(座長)	<p>広報はあんまり読まれへんけどね。でもたかTVも見てるようで誰も見てないのでね。</p>
(A委員)	<p>そもそも見れない人がいますもん。</p>
(座長)	<p>たかTVも僕案外視聴率ええんかと思ったら、視聴率案外</p>
(A委員)	<p>見れないですもん。</p>
(座長)	<p>引いてないからやん。</p>
(D委員)	<p>子どもたちに知って欲しいなという思いがあるならば、子どもたちの体育祭の映像を流す日にそのコーナーをちょっと入れるとか、子どもたちって自分の運動会とか見たいじゃないですか。それ見た後にこれの説明が出てきて説明してもらえたら。</p>
(G委員)	<p>11月5日のふれあいまつりとかにねじ込んだらいいんじゃないですか。その愛称発表だけでも。じゃあ子どもらも聞けるし。</p>
(座長)	<p>11月5日に愛称募集で出ていうことやね</p>
(G委員)	<p>団体も聞けるし</p>
(座長)	<p>了解。それも意見だからすばらしい。 課長たちは何か意見ありますか。</p>
(生涯学習課長)	<p>特にないです。</p>

(事務局)	<p>私は先ほどの意見に対してなんですけど、やっぱり広報とか公に全員に一応お知らせしましたよっていう、見てないかどうかはかっただけどこちらとしては発信したよっていうのはいったんはとらないといけないと思うので、その上でそういうイベントのときにちょっと話題にしてもらって、こういうふうに決まりましたよ。7年にオープンするから皆利用してくださいねみたいなPRはしたらいいかなと思いました。</p> <p>あと先ほどの座長に反対するような形になってしまったんですけど、せっかくのやりたい温めていることをイベントで出してしまうのがちょっともったいない気かして、新しい場所でしてもらうのがいいなっていう、部屋にこもって何かやる作業とかは別としてですが、発表みたいな形でバンドだとか踊りだとかそういうのは、せっかくなので新しい場所で初めて披露してもらうのが自分の中ではイメージだったので、そういう意見を言わせていただきました。</p>
(E委員)	特にないです。
(A委員)	<p>この住民自主企画の発表会をしなということなので、それに代わるもの。やっぱり具体的に住民の人に答えるとしたら、ここで何するんみたいなことに対してのアピールとか知ってもらう必要があるかなっていうのは思ってます。そういう意味ではあまりにいろんなありますけど、具体的にこんなことをやりたいっていうもう少し具体的な企画に近いようなベースのものを募集して、それをテーマにしてワークショップしてみるとか、話をしてみるとか、そういったことも考えられるかなとは思いますが、やらないということなので。かといってワークショップをジャンプするというのももったいないというか、この運営委員会ってなんやったんやみたいなことになりかねないので、やっぱりちょっとインパクトのあるものをやりたいですね。もう少しのこの住民自主企画っていう何か形のものをして、こんなんでできるんかみたいなことをしていただくような機会とか何か、おういう企画をしたためてるよっていうのを発表するだけでも意味はあるのかなっていうふうには思います。</p>
(F委員)	<p>今年この委員会に入りまして、この部屋の中で平面的な話しかしてなかったんですが、ワークショップに参加させていただいて、あのとき非常に立体的なことを感じました。中学生も来ておじいちゃんも来て若い方も来て何か一つの方向に向かっているな、ワークショップの良さはこれだなと思っていたので、第2回のワークショップも無理かもしれないけれども、座長さん考えられたこれだと思ってたんですが、多数決でそのようになってしまったので。言葉がありません。</p>
(事務局)	<p>僕もこの座長から聞いたあとにこのチラシをつくっていく中で、なかなか自分の中でも自主企画っていうのとワークショップっていうのがごちゃごちゃになって、なかなか把握しきれてないところがあったのが今日それが出てしまった感じがしてしまっています。</p>
(副座長)	<p>ワークショップの内容の件なんですけど、いまC委員、A委員さんもおっしゃったんですけど、ワークショップって書いてあるから普通にワークショップをしたらいいと思うんです。何をやるかは例えば第1回るときに出た漬物教室やっ</p>

てほしい。それを実際にやってみたらいいと思ってるんですよ。ただそれ 1 個じゃなくて、ちょっとこれよりも規模が大きくなっちゃうからちょっとどうかなって思ってるんですけど、今年が多可町生涯学習講座の一覧を見てるんですけど、不開講のやつがけっこうあるじゃないですか。これってやっぱり初級社交ダンスって文字だけで行かないじゃないですか。それってたぶん令和 7 年以降オープンしても一緒だから、そこまでできるか分かりませんが講師さんたちに協力を得たりとか、第 1 回ワークショップで私こういうようなんでできるって言った人をお願いしてみるとか、こういうのやってみたい、じゃあちょっとその料理教室の講師さん探そうかなみたいな。ちょっと準備と時間がかかるし 10時から12時ではできない。ちょっとお祭りの内容にはなってしまうんですけど、実際に多可町生涯学習講座で今されてるものを見たりとか、興味持ってもらって実際にミニワークショップをやってもらおうとか、そういうのにしたらお祭り気分です。ただ前の週がふるさと祭りなので、講師側の人って結構大変だしどこまでできるか。ただ案として言ってるんですけど。何かちょっとしたプチイベント、プチワークショップをいっぱい集まったものをアスパル全体を使ってやる。そしたら愛称募集も貼り出す。で、希望者の人はあっちに行けるみたいなことができないかなと思ったので言っただけです。

(座長)

ありがとうございました。

まず座長を除いた意見、個人の意見としてF委員が言われたワークショップ。この委員会正直言いますと、私が委員長をして最初から途中まで7回目くらいまでは死んでました。委員会でありながら何を決めてたのか。ずっと毎日議事録を読み返すんです。何回も何回も。でも6回目くらいまではどう読んでも何をしてたかがわからない。未だに記憶にないんです。6回目までは。起点になったのが第1回目のワークショップ。ただこのワークショップも正直苦戦の中から始まりました。参加者を集めて来てもらおうとしたそのときに、自主的に申込みをされたのはおそらく10名から15名。あとはこの委員のメンバーがお願いに回ったり、努力をしてあの雰囲気づくりができた。それも委員会の中で尚且つ中学生から集めましょうよと。中学生・高校生からそれと社会人。もちろん男性の方、女性の方という言い方すらこの世の中あかんですけれど、町民の皆さんみんな。それと年配の方も来られてました。それが一堂に会している場は多可町では初めてだったという感想が残ってるはずなんです。こんなわくわくしたワークショップに来たのは初めてだと。本当に楽しかったと。その次の委員会から流れが変わって、皆さんからこの拙い私の進行でも意見が出るようになってきた。じゃあこのままワークショップをしなくて提案書、次運営に入ります。非常にナイーブな問題です。簡単に準備委員会を立ち上げて終わらしましょうでは終わらんでしょう。図書館の話も来月はしてもらわないとあきません。いろんなところでじゃあこれだけで終わっていいのか。提案書が書けるのかどうか。となるとワークショップの意義っていうのは、ワークショップの内容だけでなく、この委員会のモチベーションというか距離感というか、一人ひとりの。それを縮めるためにあるものだと。そのワークショップの景色を見て必ず、これがまちづくりだなという景色になるはずなんです。第1回目も私はその景色になるはずやという自信を持ってやりました。ただ実際にはできるかどうか不安でいっぱいでした。でもあれがまちづくりだったんです。だからワークショップはします。個人の意見としてね。ただ住民自主企画ができないと

なると、この穴埋めをどうするかです。ただ単にどここの太鼓たたいている方にこんなクラブ活動されてますよ。例えば加美区では千ヶ峰太鼓さんに代表で来てもらって、太鼓たたいてもらう。中区であったら播州鶏合わせの小学生かに来てもらってしてもらおう。八千代だったら八千代太鼓の方に来てもらって八千代太鼓たたいてもらおう。こんな伝統文化の行事ごとがいろいろあるんですよ。そんなワークショップをしたらどうなんやとは思いますが。

じゃあここに何をを入れるかですよ。

ここからは座長の意見です。住民自主企画としては募りません。ただし、中学生・高校生。多可高校、八千代中学校、加美中学校、中町中学校、この4校にお願いに私が回ります。まちづくりプラザというのはこういうものでこういうものができます。こういうものができたときに、何をしたいですか。学生のあなたたちは未来、その若さのエネルギーでどんなものができますか。実行するしないは別にして。その発表会をしてもらう。それを住民の人に聞きに来てもらう。1校に2グループできれば8グループできます。そこに夢をかけるしかない。その景色が多可町の今後のまちづくりの景色に見えれば正解やし成功やし。それが見えないような景色であれば、生涯学習まちづくりプラザ自体が壊れると。

ここからまた個人の意見です。

経営者。まちづくりプラザも一つの店舗として思えば、例えば経営者であれば少なくともオープンしてからチラシを配るようなことはしません。ラーメン屋ならオープンしてから何のラーメンを売ろうか考えるようなことはしません。1、2年前から考えて、半年前からチラシをうって、1年前からラーメンの研究をして、何かのイベントがあればラーメンを出しに行行って、そのラーメンがおいしいのかまずいのか、また研究に研究を重ねて2、3年をかけて、オープン前にオープンの当日満席になるようにするのが経営者の仕事です。行政ではそうではないのかもしれないけれど、民間ではそうです。1年間国から例えば銀行からお金を借りれるから1年間余裕があって1年間は赤字経営でもいいですよ。その代わりにその間にゆっくりお客さんを集めたらいいですよ。そんな経営者はいません。でも生涯学習まちづくりプラザがこれは運営の話になりますけど、すべてを行政に負担をかけていいのかどうか。住民は住民で自分がやると言ってるというのは前の建設委員会のときに決まりました。じゃあそこにどう住民が参画するかいうところもあるでしょう。というのが私の最後の意見です。

再度聞きます。

第2回ワークショップをするかしないかがまず1点。2点目、第2回ワークショップをするとなった場合に、2限目私の言った案を採用されるのかされないのか。

まずするかしないのかで挙手を願います。

ワークショップをするという方は挙手を願います。

(座長)

はい、賛成多数とみなします。

ワークショップはします。私が言った学生たちの企画を取るか取らないか。取る方は挙手を願います。

(座長)

7：6で間違いはない？数字。

(副座長)	私は判断が今できない。
(座長)	挙手多数と認めます。 よって第 2 回ワークショップ 11 月 12 日は開催をします。1 限目はプラザの愛称発表。2 限目はあなたのやりたいが叶う。学生の皆さんにあなたのやりたいを発表していただきます。3 限目建設現場視察（希望者のみ）。こちらでいきます。チラシに関しては再度作り直し等々をして皆さんにメール確認をしていただきます。それとこの時期ですから広報的には、10 月広報には間に合わないので、ワークショップをしますというのを 11 月広報に入れますけども、学生たちの案というのは説明文みたいなものをつくって見ていただいて私が各学校を回るようにさせていただきます。